

## 文化財を活かしたまちづくりの取り組み

株アーバンデザインコンサルタント 棚町 修一

### はじめに

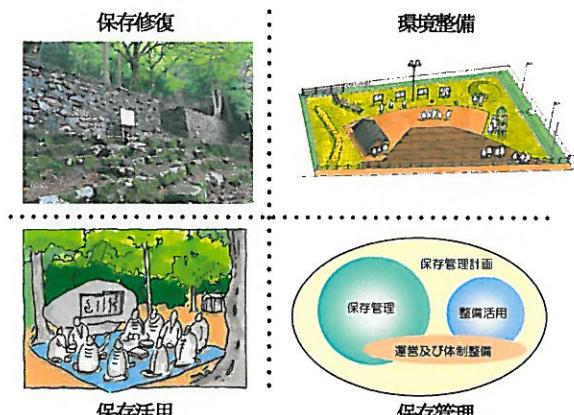
近年、まちづくりにおいて文化財に対する地域の期待が高まり、これまでの個々の文化財の復旧・保存整備に加えて、文化財をまちづくりに活かす取り組みが多くなってきていく。

文化財は日常生活に活用していくことで、保存され後世に継承できることから、市民意見を計画に反映させるプログラムも増えてきている。また一方では、開発の危機等から地域の宝を守っていくために「保存管理計画」策定の取り組みも多くなりつつある。

これまで携わってきた保存修復、環境整備、保存活用、保存管理のプロジェクトを通じ、文化財を取り巻く課題、今後の方向性について述べる。

### 1.これまでの文化財との関わり

これまで携わってきた文化財との関わり計画・設計を分類すると保存修復、環境整備、保存活用、保存管理の4つに分けることができる。



「保存修復」では古代の技術を継承しつつも、現代の技術でフォローしながら歴史的環境に調和することを目指し、「環境整備」では文化財の情報発信の場、生涯学習の拠点として市民の積極的な利用を促すための空間づくりに力点を置き、

「保存活用」では市民参加による文化財を活かしたまちづくりを目標に掲げ、「保存管理」では歴史的遺産を適切に保存し次世代へと確実に伝えていくために史跡等の本質的価値と構成要素を明確にし、それらを適切に保存管理していくための基本方針、方法、現状等の取り扱い基準の策定を目的とした計画を行ってきた。

### 2.文化財保存活用計画に見るまちづくりへの取り組み

福岡県春日市及び大野城市での保存活用計画の事例を通じて、文化財を活かしたまちづくりの取り組みを紹介する。

### 2.1 春日市文化財保存活用基本計画

「春日市文化財保存活用基本計画」では、市民参加による計画づくりを目指し、アンケート及びワークショップを取り入れて計画策定を行った。



ワークショップ



ウォッチング

文化財を市民の日常生活の関心事であり、まちづくりのテーマと関連づけ、「まちづくりに活かす文化財の保存活用」の理念のもとに、以下の4つの目標を掲げた。

- ①環境・景観に活かす
- ②教育・学習に活かす
- ③安全・安心なく暮らしに活かす
- ④健康・福祉に活かす

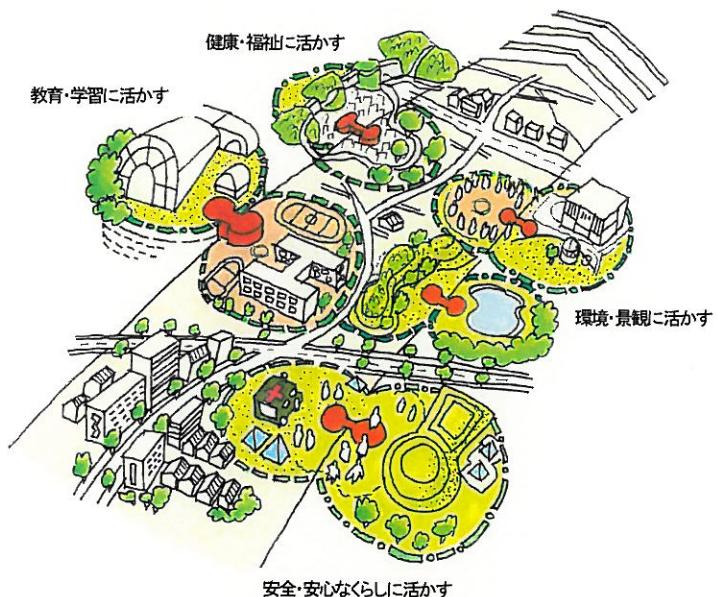


図-1 概念図

### 2.2 大野城市ふるさと文化財保存整備活用基本計画

「大野城市ふるさと文化財保存整備活用基本計画」では、アンケートと関係団体ヒヤリングにより市民の意見を取り入れて計画策定を行った。この計画では、文化財に関わる市民や民間団体、行政機関が連携しながら「ともに創る」ことを目指し、「連携による文化財を活かしたまちづくり」をテーマに掲げ、①地域連携、②行政連携、③情報連携の3つの方策を掲げた。

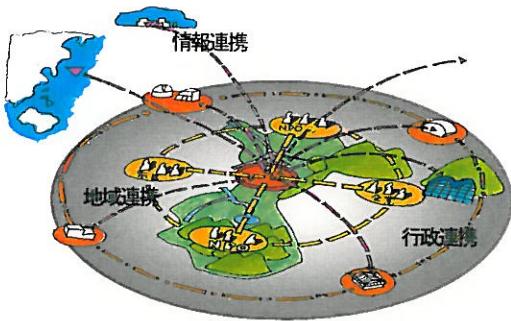


図-2 概念図

地域連携	行政連携	情報連携
大野城市における市民、民間団体と行政との連携	文化財にかかる関係機関との連携	各種情報媒体を通じての連携

### 3. 文化財を取り巻く課題

市民にあまり知られていない、あまり活用されていない、技術や人材が思うように育っていないという点が共通の課題として浮かび上がってきてている。

#### 3.1 情報に関して

##### ①情報の未整理

資料の未整理やデータベース化の遅れが見られ、情報発信がスムーズにできていない。

##### ②情報の一方通行

文化財の調査、保存及び活用に関する情報が一方通行になりやすく、市民に十分に伝わっていない。

##### ③情報のわかりにくさ

文化財に関する案内サイン整備の遅れ、マップ等のわかりにくさがやや見られ、身近な文化財の存在にさえ気付きにくく、関心も低くなっている。

#### 3.2 活用に関して

##### ①地域の活性化に活かされていない

コミュニティの形成、伝統技術を活かした工芸品や産業の復活、観光などの地域活性化に活路が見出せていない。

##### ②地域の知恵が活かされていない

先人の生活の知恵、当時の暮らしぶり、技術、信仰等の伝統文化が日常生活の知恵として活かされていない。

##### ③教育に活かされていない

文化財の価値が市民にはあまり理解されていない。その結果、歴史文化の教育が学校教育や生涯学習に十分活かされているとはいえない。

### 3.3 育成に関して

①伝統技術の後継者が思うように育っていない  
生活様式や暮らしぶりの変化の中で、本物が売れなくなり、その熟練の技や技術の断絶、そして受け継ぐ人が少なくなってきた。

②伝統技術や文化の継承がうまくいっていない  
少子高齢化の進展にもかかわらず、技術の継承、生活の知恵や伝承がうまく語りつがれていない。

③NPO やボランティアとの連携が不足している  
保存に取り組む活動の停滞をはじめ、活用のための多様な活動に携わる NPO、ボランティアの不足が挙げられる。

### 4. 今後の方向性

今後の方向性として「知る」「活かす」「育てる」の3つの方針を横軸に、「地域連携」「行政連携」「情報連携」の3の方策を縦軸に相互に補完しながら、文化財を身近な地域の宝として気づき、活かし、育てていくことが大切だと考える。

#### 4.1 3つの方針

##### (1) 「知る」

- ①情報の一元化(データベースの作成、共有)
- ②情報の双方向性
- ③わかりやすい情報提供

##### (2) 「活かす」

- ①日常生活に活かす
- ②地域活性化に活かす
- ③教育に活かす

##### (3) 「育てる」

- ①人材を育成する
- ②技術・文化を継承する
- ③活動を支援する

#### 4.2 3つの方策

##### (1) 地域連携

行政と市民とをつなぐ人材(ボランティアガイド、地域活動団体のリーダー、NPO など)の育成すると共に登録制度の推進を行う。

##### (2) 行政連携

文化財本来の魅力を活かしまちづくりに寄与するために、保存活用の将来像やデータベースの共有化により関係市町との連携を図る。

##### (3) 情報連携

情報化社会に対応した文化財情報の連携を目指し、情報受発信の拠点となる情報ステーションを核として、外部の行政・研究所・資料館等の関連機関との情報連携を推進する。